

富山の人口動向と労働力¹

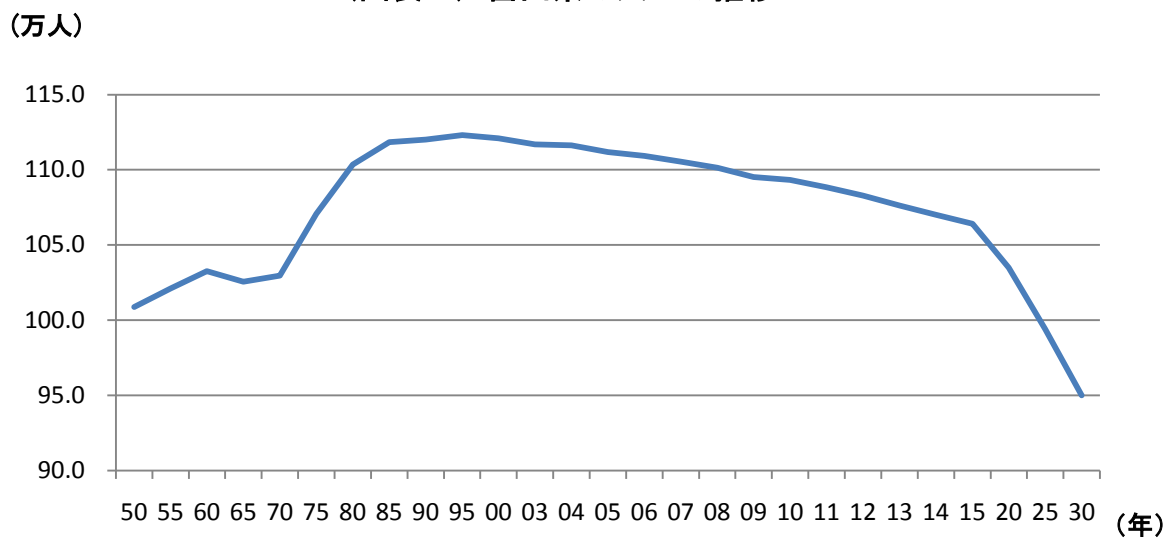
最近、日本の人口が減り始めており、少子高齢化の進行もあって将来はかなりの大きな人口減少が避けられないという話をよく聞きます。将来の人口動向については、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の将来推計人口」がよく知られていますが、そこでは、①わが国の人口が先行き急速に減少し、今世紀末（2100年）には、5千万人を切る水準にまで落ち込むこと、②人口減少は首都圏等よりも地方でより急速に進むこと等が示されています。

経済は「人の活動」そのものですので、人口動向は様々な側面で経済に大きな影響を与えます。本稿では、富山県の人口動向を概観し、その影響等について簡単に私見を纏めてみました。

1. 富山県の人口動向

富山県の人口の推移をみると、1995年あたりをピークに徐々に人口が減少しつつあることが分かります。また、先行きについても減少傾向が続くと予想されています（図表1）。

（図表1）富山県の人口の推移²

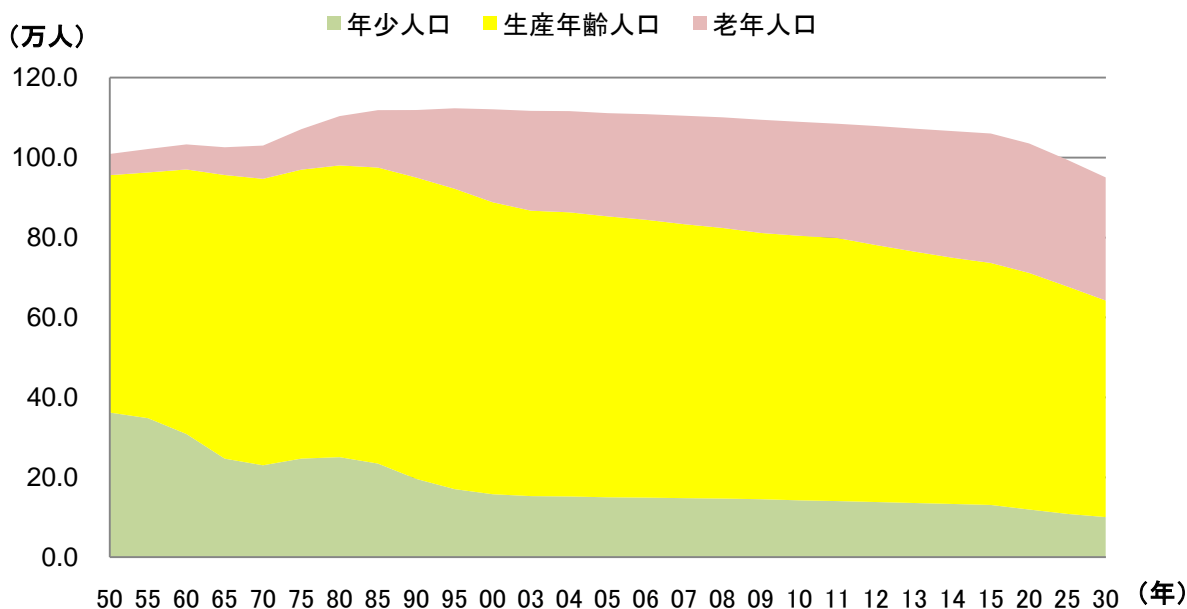


¹ 本稿で示された意見等は筆者のものであり、日本銀行の公式見解ではありません。

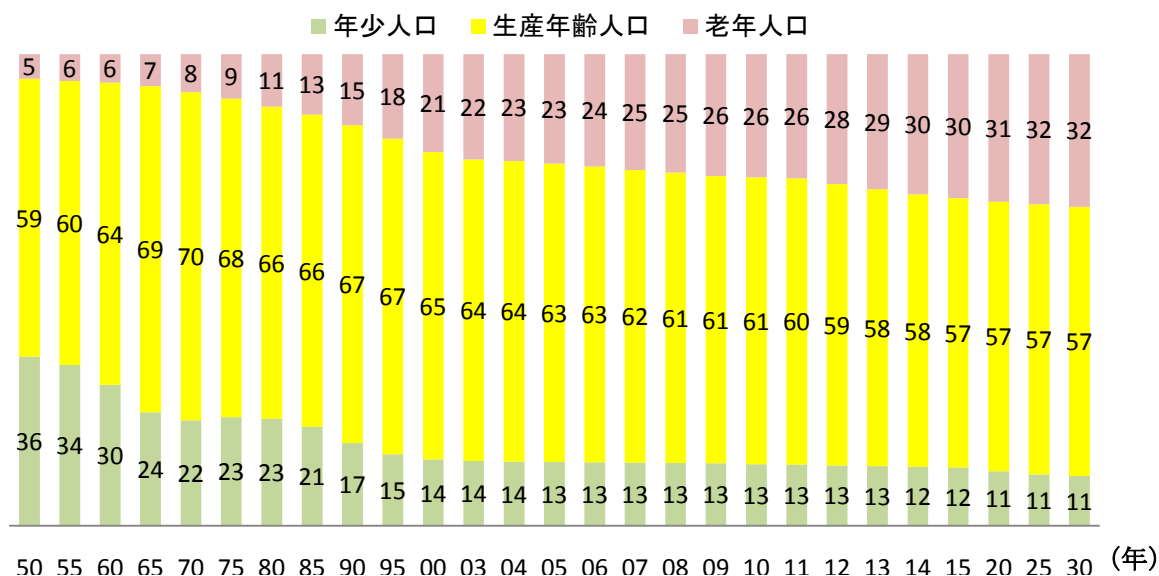
² 2015年までは「富山県統計情報ライブラリー：人口と世帯/人口構造 2.年齢別人口」(http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/jinko/rep_h27/report1-04_2.html)より作成。2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」（平成14年3月推計）の推計値を使用。横軸は西暦の下二桁のみ表示（左端は1950年、右端は2030年。以下の図表も同じ）。横軸の刻みが5年の箇所と1年の箇所があるため、グラフの傾きが必ずしも増減度合いを正確に反映していない点にご留意下さい（以下の図表も同じ）。

また、単に人口が減るだけでなく、少子高齢化の進行により生産年齢人口の減少ペースが県内人口全体の減少ペースを上回って進行しています。こうした傾向も、将来にわたって続くと予想されています（図表 2、3）。

（図表 2）富山県の年齢区分別³人口の推移



（図表 3）富山県の年齢区分別人口構成比の推移



（注）グラフ内の数字は全体に占めるシェア（％）。

³ 年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分。なお、統計上、若干数の年齢不詳者がいるため、図表1の総人口と、図表2で用いている全年齢区分の合計は若干異なっています。

2. 県内人口減少の経済面への影響

人口減少の経済への影響は広範かつ複雑ですが、ここではかなり単純化したうえで、需要サイドと供給サイドに分けて考えてみます。

(1) 需要サイドの影響

- 人口の減少は、消費、投資（設備投資、住宅投資）といった経済活動を行う主体が減少することを意味します。このため、他の条件が一定ならば、消費、投資が減少することになります。総需要に占める消費、投資の比率がかなり高い⁴ことを踏まえれば、人口の減少は需要の伸び悩み（ないしは減退）を招き、景気の足取りを重くする方向に作用します。

(2) 供給サイドの影響

- 人口の減少（とくに生産年齢人口の減少）は、労働力の減少を意味します。したがって、足元既に問題となっている県内の人手不足をさらに深刻化させる方向に作用します。このところ、県内の有効求人倍率は全国的にも非常に高い水準にあります⁵が、その背景には景気回復や当地への進出企業の増加に伴う求人数（労働需要）の増加だけでなく、労働力の減少にともなう求職者数（労働供給）の減少も寄与している可能性があります。
- また、人口の減少は労働力の減少に留まらず、事業承継の困難化（＝経営者の不足）を招くことにも繋がります。

3. 労働力不足への対応の方向性

人口の減少は、経済のみならず、社会面、文化面等、私たちの生活の各方面に広範かつ深刻な影響を及ぼすもので、まさにわが国が直面する最大のチャレンジの一つです。こうした認識の下、既に国、自治体、企業等々、様々な主体がこの問題に取り組んで数多くの対策が検討され、また実行されています。それらの全般を扱うのは私の能力を遥かに超えますので、以下では主に人口減少に伴って生じる労働力不足への対応について、意見をご提示することに止めることとします。

—— 因みに、人口減少問題を考える際に悩ましいのは、①決定打となる方策

⁴ 2014年度実質GDP（確報）に占める比率を見ると、民間最終消費支出59.9%、民間住宅投資2.9%、民間設備投資14.0%であり、合計で76.8%に達します。

⁵ 例えば、本年6月の富山県の有効求人倍率（季節調整値、受理地ベース）は1.67倍（全都道府県中5位）でした。また、就業地ベースの有効求人倍率は1.84倍（同2位）とさらに高くなっています。

がなかなか見つからないこと、②短期的な解決が難しいということではないでしょうか。また、③地域としての対応（他地域との競争の色彩が強い）と、④全国的な対応（日本全体の人口減少の対応）を組み合わせる必要もあります。何れにせよ、様々な方策を組み合わせ、長い時間をかけて計画的に取り組んでいくべき問題です。

—— なお、人口減少は多くの先進国に共通する悩みですが、米国や欧州主要国では移民の受け入れが一つの解決策となっています。ただ、こうした移民の増加が社会的な摩擦の高まりといった別の問題の背景となっているという側面もあります。

労働力の減少に対応するには、①仕事に必要な労働投入量を減らす（つまり、同じ仕事を少ない人数で出来るようにする）、または、②活用されていない労働力を戦力化し、労働投入量を増やすという二通り（および双方の組み合わせ）が考えられます。この点については、既に2015年11月の「所長のメッセージ」で扱っており、そこで提示させて頂いた方策は引き続き有効と考えています。

—— 15年11月の「所長のメッセージ」では、①所要労働量の削減策の例として、製造ラインの見直しによる効率化、工場へのロボット導入、小売店へのセルフレジの導入を挙げました。また、②労働投入量の増加策として、女性やシニア層のより一層の活用を挙げました⁶。

労働力不足への対応策としては、上記に加え、①他社との一部業務の共同化、②情報通信技術（IT）を活用した業務の効率化も効果的な選択肢となりうると思われま。やや詳しく見ると以下の通りです。

（1）他社との一部業務の共同化

- 同業種の企業の業務には共通する部分が相応にあると考えてよいでしょう。そうした部分を共同化することで、所要人員を削減できる可能性があります。実際、物流業界や飲料品メーカーの物流部門では、運転手の人手不足を受けて運送業務を共同化する動きがあるとの報道がみられています。
- また、同業者以外でも、経理、給与計算、物品調達といった間接部門の業務には共通点が多いと考えられます。そうした部門（の一部）を複数の企業で共同化することで、対象部門の所要人員を圧縮し、他の人手不足部門に要員を振り向ける余地が生まれる可能性があります。

—— 当然ながら、共同化の可能性と対象部門の重要性とは全く別の話です。

⁶ 「所長のメッセージ：富山の人手不足問題」（2015年11月2日）、2ページの「3. 人手不足問題への対応」をご参照下さい（<http://www3.boj.or.jp/toyama/pdf/mes1511.pdf>）。

(2) IT を活用した事務効率化

- 一部の金融機関では、インフラ系、業務系のシステムをアウトソースし、複数行で共同利用しています。こうした事例は他業態でも見られています（(1)の共同化の一例）。また、最近ではクラウド・コンピューティング⁷が普及しつつあり、これを使うことにより、従来は個別企業が手元で保有していたシステム資源のかなりの部分を、インターネット等経由でサービスとして購入できるようになります。その結果、システムやデータの維持管理に充てていた要員を圧縮し、他の人手不足部門に振り向ける余地が生まれる可能性があります。

こうした取り組みが成果を挙げるためには、①切り出す対象を特定するための事務分析の実行、②従来の事務のやり方に囚われない柔軟な発想に基づいた事務の再構築（帳票、規程、事務フローの標準化といった実務的な対応が鍵となります）、③捻出した人材を他分野にスムーズに移動するための環境整備（教育・技能研修、部門（場合によっては個社）の壁を超えた人材交流の仕組み等）といった対応が必要になります。とくに他社と事業を共同化することは、自社のカルチャーの変更に繋がるもので、ハードルは相応に高いと考えられます。ただ、こうした視点・発想で業務を見直していくことは、今後長く続くと思われる労働力不足問題に対処するとともに、事務の効率化を一段と進め、企業としての体力を向上させることに繋がるのではないのでしょうか。

以 上

⁷ クラウド・コンピューティングとは、従来、手元のコンピュータで管理・利用していたソフトウェアやデータなどを、インターネットなどのネットワークを通じてサービスの形で利用する方式。一般に、サービスの提供者はデータセンターに多数のサーバを用意し、遠隔からネットを通じてソフトウェアやデータ保管領域を利用できるシステムを構築する。サービスの利用者は、サービス料を支払うことで、必要に応じてデータセンターにネット経由でアクセスすることでコンピュータ資源を利用する。コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア双方）の維持管理作業から解放されるとともに、サーバ設置スペース、電気料等の節約も可能になる。